

第12回 安養寺 蠟燭能

令和4年 10月29日(土)

〔昼の部〕14時開演 〔夜の部〕(蠟燭能) 18時30分開演

京丹後市 久美浜町 安養寺本堂



こども能 土蜘蛛

狂言 寝音曲



能 鞍馬天狗

昼の部 午後二時開演 (開場午後一時三十分)

こども能 長年、安養寺で稽古を重ねてきたこども達が主役を演じます。

能「土蜘蛛」

前シテ(怪僧)……………	田中彩子(中二)	笛	左鴻泰弘
後シテ(土蜘蛛の精)……………	嵯峨根稜貴(中三)	小鼓	林 大和
ツレ(頼光)……………	家城直美(中二)	大鼓	河村眞之介
ツレ(胡蝶)……………	嵯峨根李佳(小五)	大鼓	井上敬介
トモ(太刀持)……………	三木暁史(中一)	後見	観世喜正 河井美紀
ワキ(独武者)……………	有松遼一	地謡	永島 充 坂真太郎
ワキツレ(武者)……………	岡 充		桑田貴志 石井寛人
アイ(家来)……………	茂山千三郎		

夜の部 (蠟燭能) 午後六時三十分開演 (開場午後五時四十五分)

蠟燭能

狂言(大藏流)「寝音曲」

シテ(太郎冠者)…………… 茂山千三郎
アド(主人)…………… 茂山忠三郎

能(観世流)「鞍馬天狗」

シテ(山伏 大天狗)…………… 観世喜正
子方(牛若丸)…………… 三木暁史(中一)
子方(花見稚児)…………… 地元小学生
ワキ(僧)…………… 有松遼一
アイ(能力)…………… 茂山千三郎
アイ(木葉天狗)…………… 茂山忠三郎
アイ(木葉天狗)…………… 山本善之

笛	左鴻泰弘
小鼓	林 大和
大鼓	河村眞之介
太鼓	井上敬介
後見	河井美紀
地謡	永島 充 坂真太郎
	桑田貴志 石井寛人

「蠟燭能」 狂言 寝音曲 (ねおんぎょく)

主人が酒宴の帰りに、たまたま太郎冠者の家の前を通りかかったところ、上手な謡を耳にします。翌日早速、自分の前で謡を謡うように命じます。太郎冠者は、今後たびたび謡わされては困ると考え、まず酒を飲まなければ謡えないと嘘をつきますが…。



茂山 千三郎
しげやま せんざぶろう

能 鞍馬天狗

春の京都 鞍馬山。僧たちが平家一門の稚児たちを伴って花見の宴を開いています。そこに一人の山伏が居合わせると、僧たちは場違いなものがあることを嫌がり一人の稚児を残して立ち去ります。山伏がその稚児に自分だけなぜ残っているか尋ねると、自分は平家一門ではないのでないがしるにされていると語るの、山伏はこの稚児は源義朝の子 沙那王(牛若丸)であると察します。山伏は牛若丸を慰め、自分は鞍馬山の 大天狗であることを明かし、兵法を伝授するので驕る平家を倒すよう勧め再会を約束して消えます。



観世 喜正
かんぜ よしまさ

木の葉天狗との立ち合いを師匠(大天狗)の許しが無いと思ひ留まった牛若丸のところに、大天狗が威厳に満ちた堂々たる姿を現します。大天狗は、牛若丸の態度を褒め、同じように師匠に誠心誠意仕え、兵法の奥義を伝授された、漢の張良(ちょうりょう)の故事を語り聞かせます。そして兵法の秘伝を残りなく伝えると、将来の平家一門との戦いで必ず力になると約束し、夕闇の鞍馬山を飛び去ります。

「こども能」 能 土蜘蛛 (つちぐも)

病に伏せる源頼光(みなもとのらいこう)のところに、召使の胡蝶(こちょう)が典薬の薬を持参します。夜更けになり頼光のもとに怪僧が現れ病状を尋ねます。不審に思った頼光が名を尋ねると「わが背子(せこ)来(く)べき宵なりささがにの」と『古今集』の歌を口ずさみ近づいてきます。見ればその姿は蜘蛛の化身で、あつという間に千筋の糸を投げかけてきます。頼光は護身の宝刀 膝丸(ひざまる)で切りつけると、怪僧は暗闇に消えていきます。

騒ぎを聞きつけて頼光の従臣 独武者(ひとりむしゃ)が駆けつけると、頼光は宝刀膝丸で切りつけたことを語り、蜘蛛の化け物を成敗するよう命じます。独武者は家来と共に土蜘蛛が残した血の跡をたどりその住処を見つけ、土蜘蛛と武者との間で激しい戦いの末、土蜘蛛は成敗されます。

チケット発売日 9/8(木)

こども能(育成協力金)	【全席自由】
一般	3,000円
学生	無料
……………	
蠟燭能	【全席指定】
一般	10,000円
学生	4,000円

お問合せ お申込み たんたんのうのう会事務局(藤村) ☎090-1137-1758
京丹後市久美浜町安養寺125

主催/たんたんのうのう会 協賛/(株)紫野和久傳 後援/京都府・京丹後市・京丹後市教育委員会・京丹後市文化協会・安養寺